

「晩秋の上高地紀行 (10)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

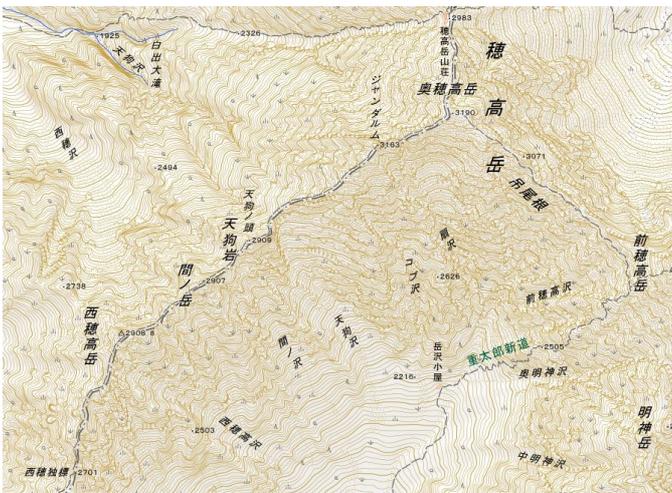
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

上高地の標高はおよそ 1500m。現在は完全に観光地化しているが、本来は槍ヶ岳、穂高連峰などの 3000m 級の高峰への根拠地である。「穂高連峰」とは、奥穂高岳、北穂高岳、前穂高岳、西穂高岳の総称である。岳人には、それぞれ「おくほ」「きたほ」「まえほ」「にしほ」と呼ばれている。



上高地からは穂高連峰のほぼ全貌が見えるが、登山の対象として一番キツイのは「西穂」だろう。西穂は上高地から直接登ることもできるが、これは長大でひたすら上りの尾根で、私は若い時、途中の独標(独立標高点)付近でシャリバテになった記憶がある。



奥穂から西穂への道もあるが、この縦走路は、北アルプスでも屈指の難路である。特に途中の「ジャンダルム」は難関中の難関で、アルピニスト憧れの岩峰だ。私が穂高連峰の中で、唯一行きえなかった場所である。



上高地ではニホンザルをよく見かける。登山道や遊歩道だけでなく、バスやタクシーの走る県道にもよく出没する。本州の山岳地帯のニホンザルは、体が大きい。屋久島で見たニホンザルは、もっと小型だった。



両親と数時間、おおらかな山歩きをしたあと、最後の目的地「上高地帝国ホテル」に寄ることにした。穂高連峰を背負う赤い屋根の建物は、まるでスイスの山岳ホテルのようなたたずまいだ。



食事には中途半端な時刻だったので、玄関ホール脇にあるカフェで休むことにした。このケーキセットが 1600 円とは驚きだが、窓の山岳風景を眺めながら、ゆったりとした時間を過ごすことができた。